

---

# 神様に近い僕の願いは

牡羊座

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様に近い僕の願いは

### 【Nコード】

N6106A

### 【作者名】

牡羊座

### 【あらすじ】

平凡な時間の流れが行き交う世界、その世界に神と同等の願いの力を授けられた一人の少年が居た、少年は自分の願いを叶え、人の願いを叶える力を持つ。そんな少年の仄々な物語

僕が望めば突如人間を飢えに苦しませる事も

僕が望めば突如世界を海に沈める事も

僕が望めば突如人間をこの世界から抹消する事も

僕の意味によって可能

そんな事を言っても誰も信じないし気味が悪いと言われるだけ  
其れは本当の事で僕は嘘等言っていない

望みは僕の願いを叶えてくれる

望めば僕は人間を望むだけで懲らしめる事が出来る

。　・　・　神様に近い僕の願いは　・　・　。

欲望に満ちた生命体、【人間】として狭い範囲のこの世界に生まれ  
た僕、鈴山 サヤト。

母と父が僕を置いて空に行ってしまった時から、僕は街の古びた洋  
館で叔母と暮らしている

平凡な暮らしを続けて、平凡に生きる僕には生まれた時から授けら  
れた力があつた

それは神様に程近い人間が持つてはいけない【欲望】に満ちた、望  
みを叶える力

僕は神様選ばれその力を自在に扱う事が出来る、幼い頃から僕は  
この力を認識していた

其れと同時に恐ろしく残酷な力と言う事も判っていた

「  
…」

僕は無言で洋館の庭のベンチに叔母と一緒に腰を降ろし日向ぼっこ  
をしている

仄々とした表情を浮かべ太陽を望む叔母の姿を見る度、優しくそし  
て愛しく思えた

僕が叔母を見つめている時、叔母は辛そうに年老いた皺々な手でト  
ントンと腰を叩いているのが眼に映る

とても困っている感じがする彼女の腰に僕はそつと未だ成長前の小  
さな掌でポンツと叩く

其れと同時に白く淡い光が放たれ洋館の庭の花壇のまだ蕾のままだ  
つた花の花弁が突如軟らかく開く

叔母の表情も柔らかくなり僕は笑みを浮かべた

「お天道様が痛みを取ってくださったのかね」

と仄々と何も知らず眩しい程の太陽を年老いた眼で映し出し掌を合わせ優しく拝んだ

痛みを和らげて上げたのは僕なのに、と僕は少々不機嫌になる  
けれど叔母は「サヤ坊の温かい掌のお陰かもしれないね」と感謝する様に口を開く

僕が不機嫌になっていた事に気づいたのだろう、僕は照れて頬を赤に染める

優しい笑顔、些細な事で現れる真実の表情

今の人間にはその表情が薄れてきてると、僕は思う

次の日、僕は黒く嫌に重いランドセルを小さな背中に背負い憂鬱に  
思いながら賑やかな都内を進む  
僕の小さな身体には行き交う人々が動く高層ビルに見える、僕はそのビルの様な人々を潜り抜ける

首が痛くなる程、顔を上に上げ人々の表情を愉しむのが僕の日課  
苛立ちを隠せず、歩き煙草で苛立ちを薄め様としている真新しいス  
ーツを身に纏う男性も居れば

何故だか緊張しつつ、心に秘めし希望を表情に出し進む真新しいス  
ーツを身に纏う女性も居る

何故だか正反対に感じられるそのまったく違う人を見守るのが何故  
だか嬉しい

今思えば、こんな事を愉しむ小学生なんて、僕しか居ないだろうと  
僕は笑う

「あ」

人々の表情を愉しんでいた僕がふっと視線を正面に向ければ、思わず声が出て脚が止まる

丸い眼に映し出される、人の波に飲まれながら泣き叫び遠い場所に居る小さな少女

手に持つ風船を握る手は涙に濡れ、絶望に埋もれた悲しい声が響くママ、パパと震えた声で呼び続ける少女、僕の心に何故だか罪悪感が芽生える

その声に僕と同じ様に立ち止まる人々、顔を歪める人や悲しい目で見える人等、多種多様

そんな中、一人の女の人が少女に近づき話し掛ける、少女の涙は止まった

何を言っているかは此処から聞こえない、けれど彼女が少女を慰めているのは良く分かる

少女は彼女の手を握り、笑みを浮かべた

「…」

僕は彼女達から視線を外し、違った道を歩み心の中で何かを望んだ其れと同時に少女の慶びの声と複数の声が其の場に響いた

僕は笑みを浮かべ、ただ「良かった」と心の中で思うだけ

僕が望めば突如人間を飢えに苦しませる事も

僕が望めば突如世界を海に沈める事も

僕が望めば突如人間をこの世界から抹消する事も

僕の意味によって可能

誰も信じないけれど其れは真実で僕の望みが世界を変える

けれど僕は世界を変える程の事は望まない

人の人生が変わるほどの事は望まない

たとえ嫌いな奴がいたって、その人が不幸になる願いなんて望まない

神様に近い僕の願いは、世界中の人々への小さな小さな一つの幸せ

小さな小さな一つの幸せは柔らかな真実の笑顔を生み

密かに人間の心を暖める

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6106a/>

---

神様に近い僕の願いは

2011年1月19日22時43分発行